

私は39歳の時、初めて受けた人間ドックがきっかけで乳がんだとわかりました。この日から今までの日常が一変してしまいました。私には三人の子供がおり、末っ子は当時まだ1歳半でした。がんになる前の生活は、毎日育児に追われてバタバタ、ホッと息をつく暇もなく、いつもイライラしていました。

「あーしばらく一人になりたい。南の島のどこかでのんびりしたいわ・・・」なんて思っていました。そうしたらまさかの乳がんです。南の島どころか病院で入院、闘病生活になってしまったのです。

自分にはまだまだ関係ないと思い込んでいた(考えもしていなかった)がんという病気。まず脳裏に浮かんだのは「死」でした。

「私、もう死んでしまうの?」「私が死んだら子供達はどうなるの?」家族には普段と変わらない態度でいましたが、夜中に布団の中で泣いていました。

手術で右乳房を無くし、その傷が癒える間もなく化学療法が始まりました。吐き気や脱毛、様々な副作用に苦しめられました。苦しい時は「なんで私が?」「もういや!」と心が折れてしまいそんなときもありました。そんなときは、私以上に夫や子供達、家族が私の病気のために悲しみ、辛い思いをしてくるんだということを感じ、自分の身体からがんを追い出して早く元気な姿で家族の元へ帰ろうという一心で耐えました。

あのときの自分を振り返ってみると、自分の人生の中で心身ともに一番頑張った時期だったのではないかと思います。「死んでたまるか」生きるんだと一生懸命でした。

入院中、病院には自分と同じがん患者さんがたくさんいらっしゃいました。がんといっても部位や症状、治療法などは様々ですが、皆さんの病気に立ち向かう姿を見てずいぶん励みになり乗り切ることができました。

そして先日、術後一年が経ちました。この先、再発や転移ということがあるかも知れないという不安はありますが、今は家族や友人と以前のように過ごせることをありがたく思います。もう、一人で南の島へ行きたいとは思いません(笑)子供達が私の胸の傷を「イタイイタイの、とんでけー!」と言いながらさすってくれるバスタイムのひと時がとっても幸せです。

がんによって無くしたものはありますが、がんになったことで気付かされたことが沢山あります。命があることのありがたさ、感謝の気持ちを忘れず一日一日を大切に過ごしていこうと思っています。